教員氏名：三浦 哲也（現代コミュニケーション学科･専攻／教授）

１．教育の責任（何をやっているか）

現代コミュニケーション学科に所属し、主に国際理解・ツーリズムコースの科目を担当している。また、１年生向け「基礎研究」、２年生向けの「卒業研究」も担当している。併設の育英大学においては兼担として複数の授業を担当している。

なお、これまでに筑波大学、獨協医科大学看護学部、国立病院機構栃木医療センター附属看護学校などで非常勤講師を担当した経験がある。

現在の主な担当科目一覧		
育英短期大学	現代コミュニケーション学科	世界の民族と文化、現代海外事情、ツーリズムビジネス、ホテルビジネス、テーマパーク論
育英大学	教育学部教育学科	民族と宗教、問題解決法、創造的思考法

２．教育の理念（なぜやっているか）

専門分野を研究するものとしての理念とその背景や経験

私は､文化人類学および東南アジア地域研究を専門としている｡この学問領域において、私は、人類の営みの総体的理解と相対化を図るため、フィールドワークを重視した研究を進展させてきた。さらに、現在は、環境社会学、嗜好品文化研究など、幅広い関心を持って研究活動を展開している。

本学においては、文化人類学を中心とする専門分野の知識と豊富なフィールドワークの経験と、そしてかつて大学院修士課程で学んだ環境科学という理科系の観点を併せ持つ教員として、文化の多様性に深い理解と豊かな発想力でビジネスの現場で活躍できる人材の育成を目指している。

学生の学習に対する理念

私は、これまでいくつかの教育機関で多様な学生に接する機会があったが、少なからぬ学生が、社会／文化に対して、平板で画一的な理解で満足し、そしてその事に無自覚であることに、危惧を感じてきた。彼らは、専門的な知識を詰め込んでいく大学教育と、メデ

ィアやネットに溢れる一面的な情報の中で、それらを効率よく受け取って整理するIT／メディア・リテラシーばかりを多く身に付けているように感じられる。

世界と社会に対する一面的な理解は、彼我の差異、価値観の相違について認識を誤らせ、あるいはその違いを隠蔽する。グローバル化が進行する中で、多様な文化現象・社会現象を総体的に理解し、地に足をつけて活躍するためには、実践を通じて、専門領域を横断する幅広い知識と価値観を涵養することが必要であると考える。

３．教育の方法（どのようにやっているか）

具体的な脅威幾条の実践や教材の工夫

より確実で効果的な学習成果の獲得を目指して、以下のような工夫を行っている。

①　講義系の授業では、毎回講義内容をまとめたレジュメを配布し、それに沿ってPowerPointのスライドを用いて解説を行っている。画像や動画をふんだんに用いて、学生が多面的な情報に触れることができる機会を増やすようにしている。

②　現代コミュニケーション学科では、原則としてすべての「コミュニカティブラーニング」を実施しているが、私の担当科目においては、しばしばピアディスカッションを行っている。そこでは、学生同士が意見や情報を交換し、１つの問題を複数の視点から議論することで、物事の多角的な理解および他者との共感の機会を創り出していくように導いている。

４．教育の成果（行った結果どうだったか）

学生による授業への評価

授業に対する学生からの評価は高く、直近３年度において、学生による授業評価アンケートに基づき、５回の「優秀教員表彰」を受けている。

５．教育における今後の目標（これからどうするのか）

中長期的な目標

今まで以上に、多様なアクティブラーニングの工夫を取り入れた講義を通じて、私自身がこれまでさまざまなフィールドワークで得てきた現場での感覚と経験、そして多様な価値観を、学生に伝えていくことが、中長期的な目標である。それが、異なる文化や社会に

積極的に興味を持ち、豊かな想像力で多様性と差違とをおおらかに受け入れ、ビジネスの現場で、あるいは公共性の高い職場で、具体的な問題解決へ取り組むことができる人材育成へ繋がるよう目指したい。

【添付資料】　※全部又は一部の現物を省略しています。

1　担当科目のシラバス

2　優秀教員表彰の記録

（2024 年 8 月 28 日現在）